

[成果情報名]環境保全型農業に適応したエダマメの化学肥料低減技術

[要約]鶏ふんまたは油粕で窒素施肥量の2分の1を代替えることにより、硫安施用と同等の莢数および莢重を確保することができる。

[キーワード]諫早湾干拓地、エダマメ、夏作、収量、有機質肥料

[担当]長崎県農林技術開発センター干拓営農研究部門

[連絡先](直通)0957-35-1272

[区分]総合・営農(干拓)、野菜

[分類]指導

[作成年度]2016年度

[背景・ねらい]

エダマメは端境期の7月に機械収穫が可能であり、諫早湾干拓地において有望な品目である。そこで、環境保全型農業の推進を図ることから特栽レベルでの特性を調査する。

[成果の内容・特徴]

1. 草丈、最下着莢高、分枝数は、鶏ふん1/2窒素代替えおよび油粕1/2窒素代替えで全量硫安施用と同等である(表1)。
2. 莢数は鶏ふん1/2窒素代替えおよび油粕1/2窒素代替えで全量硫安施用と同等である(図1)。
3. 莢重は鶏ふん1/2窒素代替えおよび油粕1/2窒素代替えで全量硫安施用と同等である(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 施肥はすべての区で播種と同日に行った。
2. 本試験は諫早湾干拓地において実施した。

【耕種概要】

供試品種：湯あがり娘(カネコ種苗)

施肥量：窒素6kg/10a(鶏ふん区および油粕区は窒素の1/2量を代替え)

硫安・・・窒素21%、リン酸0%、カリ0%

醗酵ペレットけいふん・・・窒素3%、リン酸4%、カリ3%(分解率70%)

菜種油粕・・・窒素5.3%、リン酸2%、カリ1%(分解率70%)

栽植密度：約5,120株/10a(畦間65cm、株間30cm)

区制：1区3反復(調査：10株×3反復)

播種日：平成28年5月13日(黒マルチ、1穴3粒まき、2本調整)

収穫日：平成28年7月19日

害虫防除：7月1日および7月7日にアルバリン顆粒水溶剤を散布

[具体的データ]

表 1 施肥方法ごとの茎葉調査結果

区名	草丈 (cm)	最下着莢高 (cm)	分枝数 (本)
鶏ふん1/2代替区	26.8 a	3.3 a	4.1 a
油粕1/2代替区	27.6 a	2.3 a	4.4 a
硫安	26.9 a	2.5 a	4.1 a

z: Tukey法により n. s. (n=30)

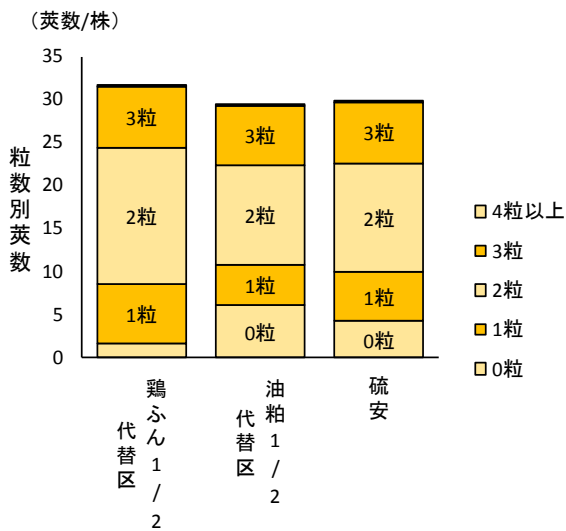


図 1 株当たり粒数別莢数

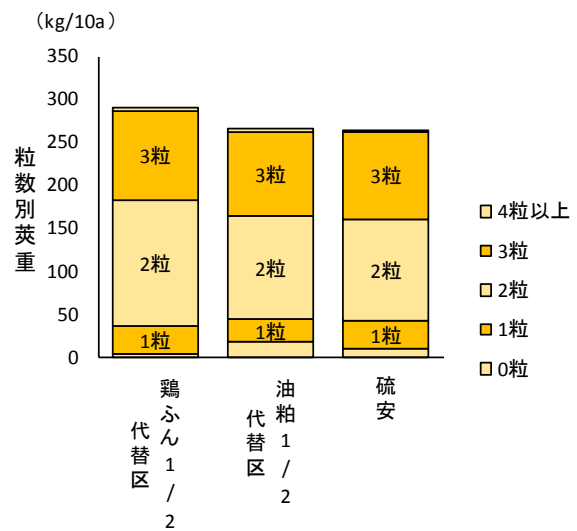


図 2 10a 当たりの粒数別莢重



図 3 鶏ふん 1/2 代替区

[その他]

研究課題名：環境保全型農業技術による安定生産技術の確立
 諫早湾干拓地基礎調査(農政局委託調査)

予算区分：県単、国庫

研究期間：2016 年度

研究担当者：草原典夫